大阪インターナショナルチャーチ
ジョセフ・トッティス牧師
02/17/2013
独身でいること：つり合わぬくびき

マルコ 10:6 しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。
マルコ 10:7 それゆえ、人はその父と母を離れ、
マルコ 10:8 ふたりは一体となるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。
マルコ 10:9 こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」

先週の学びでは、次のことについて考えました。もし主ご自身が、独身であるあなたのためにふさわしい助け手を備えてくださるとしたら、その人はどんな性質の人でしょう。創世記2章では、初めの男性が創られてからのできごとをこう記しています。

創世記 2:18 神である【主】は仰せられた。「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」

こうして神は初めの女性を造られました。彼女は、初めの男性にとって完璧にふさわしい人でした。

先週、この元祖「天が決めた結婚相手」の例を見ました。神が私たちにも完璧にふさわしい相手を備えてくださっているなら、その相手に見られるであろう重要な性質や基準をいくつか見ていきました。
どのようなものか覚えていますか。
私たち人間の構成要素と同じでした。体、たましい、霊です。

安定した一致のある結婚生活の秘訣は、外見に魅力を感じる、気持が通じ合う、霊の一致があることだと学びました。

この3つの基準があれば、みこころの相手を見分けるのに役立つとお話しました。神が備えてくださった最善なのか、人間の妥協なのかを見分けるのに、こういった基準が役立つのです。

男女がひとつとなるとき、人生のすべての点で、すなわち、心も、体も、霊も、親密な関係になることを神は望んでおられます。

結婚は、神が人類に与えられた賜物の中でも、充実感を与えてくれるこの上なく素晴らしいものです。

しかし、これまで何度も言ったように、独身でいるよりよくないことがあります。それは、間違った相手と結婚することです。

これはとても大切なことです。独身の人たちにはよく考えていただきたいです。

現代社会では、離婚率が上昇しています。つまり、うまくいっている夫婦が減少していると言えます。これはなぜでしょう。

結婚に関わる神の具体的な教えをこの世が無視していることと関連はないでしょうか。

神の具体的な教えなどあるのでしょうか。現代でも、神は結婚を望むクリスチャンに何かを教えてようとしておられるのでしょうか。もちろんそうです。残念ながら、結婚について聖書から明確な教えを受けたクリスチャンは多くありません。けれども、神はみことばの中に、このテーマについてはっきりとした具体的な指針を与えてくださっています。

ただし、耳を傾けている人がいるかが問題です。

たいていのクリスチャンが、神のみことばは日々の信仰の歩みと人生の指針だと言うでしょう。ところが、結婚についてはなぜか、結婚という大きな一歩を踏み出す前にみことばを実際に開いてみるという信徒が意外と少ないのです。さらに驚くべきは、神のみことばが何と言っているか知っているにもかかわらず、わかっていて従わないことを選ぶクリスチャンが多くいることです。

結婚を考えているクリスチャンにとって何より大切なのは、私たちクリスチャンはイエス・キリストの主権のもとに生きるものだという認識です。

聖書は、私たちがキリストによって買い取られたと語ります。その代価は、他でもない主ご自身の血潮です。

１コリント 6:19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。
１コリント 6:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。

代価は何でしたか。

１ペテロ 1:18 ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、
１ペテロ 1:19 傷もなく汚れもない小羊のような**キリストの、尊い血**によったのです。

イエスは私たちを罪から救うために死なれました。このお方は、私たちの命を所有する神なるお方です。もちろん、イエスは何ら私たちに強制なさいません。主のみこころに従うことも強要されません。イエスは優しいお方で、愛情をもって私たちの心に働きかけてくださいます。私たちが自分の意志よりイエスのみこころを選べるようにしてくださいます。キリストを愛するからこそ、私たちはこのお方に従おうと思うのです。

イエスはおっしゃいました。「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」（ヨハネ14：15）

「そのとおりだ。だから、そのとおりにしようと思っているんだ！聖書には、『情の燃えるよりは、結婚するほうがよい』と書いてあるでしょう」と思っている人もいるでしょうか。

もちろん書いてありますが、「情が燃えているから、すぐにでも結婚しないといけない」と思っている人。
ちょっと待ってください。
この個所をもう少ししっかり見てみましょう。使徒パウロは独身のクリスチャンに向かってこのように語っています。

1コリント**7:8** 次に、結婚していない男とやもめの女に言いますが、私のようにしていられるなら、それがよいのです。

パウロのように独身でいられるなら「それがよい」のです。
2週間前に話したように、独身でいることは悪いことではありません。

１コリント 7:9 しかし、もし**自制**することができなければ、結婚しなさい。情の燃えるよりは、結婚するほうがよいからです。

この文脈に注目してください。「もし自制することができなければ、」の「自制」とは何でしょうか。これは、御霊の実です。

ガラテヤ 5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、
ガラテヤ 5:23 柔和、**自制**です。このようなものを禁ずる律法はありません。

自制は御霊の実です。1コリント7:9でパウロが言っているのは、こういうことです。

１コリント 7:9 しかし、もし**自制**することができなければ、結婚しなさい。情の燃えるよりは、結婚するほうがよいからです。

自制を働かせることができない、すなわち、御霊に導かれていないのであれば、その反対は何だったでしょう。何に導かれているのでしょう。それは、肉です。

ガラテヤ 6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その**刈り取りもする**ことになります。
ガラテヤ 6:8 自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。

思い違いをしてはいけません。肉のために蒔く者は、滅びを刈り取ります。これは、霊の法則です。

あなたが肉によって歩み、自制を働かせることができないという理由で結婚するなら、結婚自体も何らかのかたちで滅びを刈り取ることになります。本来の神の意向とは違ったものになります。思い違いしないでください。

1コリント7:9で、パウロは容認しているわけです。

それは、ふたつの悪からましなほうを採ることです。パウロはもうひとつの選択肢を「情の燃えるよりは」としていますが、これは、婚外交渉という罪を指しています。

ヘブルの著者はこう言いました。

ヘブル 13:4 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行う者とをさばかれるからです。

神は結婚関係を非常に尊ばれます。夫婦でない人が性的な関係を持つなら、その行為はいつか神の裁きを受けます。これはゆゆしい問題です。

コロサイ 3:5 ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、**不品行**、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。
コロサイ 3:6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。

思い違いをしないでください。私たちの人生に神が示してくださるご計画に反する歩みをするなら、そこに祝福はありません。結婚せずに同棲するなら、それがクリスチャンであろうとなかろうと、ふたりの関係と家庭を裁かれるべきものにしてしまうのです。聖書がそう語るのですから、それはよい状態ではありません。

それはよくない、じゃあすぐ結婚しよう、と思った人。
ちょっと待ってください。話はまだ終わっていません。

親密なつながりは、結婚における最大の祝福といえるかもしれません。パートナーを深く知り、人生をともに分かち合えるのは、まさにすばらしいものです。けれども同時に、肉の最大の誘惑でもあるでしょう。

先ほど申し上げたように、男女がひとつとなるとき、人生のすべての点で、すなわち、心も、体も、霊も、親密な関係になることを神は望んでおられます。

これを実現するのを阻むのが「つり合わぬくびき」です。これは、聖書で使われる用語で、片方がクリスチャンでないために霊における親密な関係が持てないふたりのことを指します。

申命記22:9で、神はイスラエルの民にこう命じられました。

申命記 22:9 ぶどう畑に二種類の種を蒔いてはならない。あなたが蒔いた種、ぶどう畑の収穫が、みな汚れたものとならないために。
申命記 22:10 牛とろばとを組にして耕してはならない。

なぜでしょう。まず、性質の違う動物で、実用的でないからです。牛はろばより強く引っ張るので、結果的に強いほうだけが前に進みます。そうなると、弱いほうを中心に円を描くだけで、前に進めません。

次に、どちらの動物にとっても残酷だからです。神は、サイズも力も大きく違う動物をひとつのくびきにつなぐのを禁じられました。それは、くびきの摩擦で両方の動物がけがをしてしまうからです。牛は自分だけが荷を担ぐことになり、ろばは牛についていけません。両方がすぐにけがをし、疲れてしまうでしょう。

このふたつをひとつのくびきにつなぐのは、実用的でなく、残酷なことです。だから神はこれを禁じられました。神はそれほど動物のことを気にかけておられたのでしょうか。それとも、私たちに教えたい霊的原則がそこにあるのでしょうか。

もうご存知かもしれませんが、旧約聖書は隠された新約聖書であり、新約聖書は紐解かれた旧約聖書です。どういうことかと言うと、旧約聖書に見られる実際の事例の多くは、新約聖書の霊的な教えに関連性があり、適用できるのです。

この場合は、こうです。

２コリント 6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。

使徒パウロは、イエス・キリストを信じない人とパートナーになることを指しています。くびきをいっしょにつけるとは、一緒に働くためにひとつになることです。聖書の時代、仕事の能率を上げるために二頭の動物をつなぐのがくびきでした。先ほど言ったように、くびきが釣り合っていないと、力のバランスが悪く、仕事は

思うように進まず、動物にとっても苦痛です。不信者とつり合わぬくびきをつけると、バランスが悪く、霊的にも思うように前進できません。

不信者と結婚すると、配偶者と霊的に親密な関係になることはできません。キリストという共通点がないからです。あなたの意中の人が、神の御霊によって生まれ変わった人でないなら、神のことも、あなたのキリストとの歩みも、理解することはできません。

神のみことばはこう警告します。

２コリント 6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。
6:15 キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何のかかわりがあるでしょう。

「あの人はクリスチャンではないけれど、霊的なことに興味もあるし、一緒に教会に来てくれるから」と言って、不信者との結婚を正当化するクリスチャンもたくさんいます。

これを「恋愛伝道」と呼んだりしますが、これの問題は、相手が求めているのがあなたなのかキリストなのかがわかりにくい点です。相手が救われて洗礼を受けても、なかなか確信できません。

私は19歳のとき、ある女の子と付き合いたいと思いました。当時私はクリスチャンではありませんでした。その女の子のご両親はカトリックで、教会に行くなら付き合いを許すと言いました。私は「いいですよ」と言って、それから2年間、その女の子と教会に行きました。ただし、礼拝はすべてスペイン語だったので、私はまったく理解できませんでした。でも、彼女と一緒にいられれば、どうでもよかったのです。

「恋愛伝道」はとても危険です。いっしょにいればいるほど情が移りますが、それによって傷つく可能性も高いからです。神は警告されます。「不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。」

これは勝ち目の少ない賭けのようなものです。この賭けに出て、負けた人のほうが勝った人よりはるかに多いことを覚えていてください。その影響はあなただけにとどまりません。

神がクリスチャン同士の結婚を望まれるのは、将来の子供たちのためでもあるのです。

マラキ 2:15a 神は人を一体に造られたのではないか。彼には、霊の残りがある。その一体の人は何を求めるのか。神の子孫ではないか。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。

両親の信仰がばらばらだと、子どもはたいへんです。

私がクリスチャンだから不信者の配偶者も救われると聖書に書いていませんでしたか、と思っている人。

それは違います。でも、どこの箇所を思い浮かべているかはわかります。

１コリント 7:12 次に、そのほかの人々に言いますが、これを言うのは主ではなく、私です。信者の男子に信者でない妻があり、その妻がいっしょにいることを承知している場合は、離婚してはいけません。
１コリント 7:13 また、信者でない夫を持つ女は、夫がいっしょにいることを承知している場合は、離婚してはいけません。

この文脈では、自分が信仰に入る前に、すでに不信者と結婚していた人について語っています。コリントのクリスチャンの中には、「私が不信者と結婚していたら、神に栄光をお帰しできない。信仰のために離婚するべきだ」と思った人がいたのかもしれません。けれどもパウロは、離婚してはいけないと言いました。信仰への配慮は、不信者と結婚しない正当な理由ではあっても、すでにある不信者との婚姻関係を解消する理由にはならないというわけです。なぜでしょう。

１コリント 7:14 なぜなら、信者でない夫は妻によって聖められており、また、信者でない妻も信者の夫によって聖められているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れているわけです。ところが、現に聖いのです。

この箇所が語っているのは、結婚後に信仰を持った人のことで、結婚前にクリスチャンだった人のことではありません。パウロは、ノンクリスチャンとの結婚生活を保つべき理由をこう挙げています。それは、神がそのような結婚生活で栄光をお受けになり、信徒の妻または夫をとおして、ノンクリスチャンの配偶者をイエス・キリストに導く働きができるからです。聖められるという単語は、単に取っておかれるという意味です。この文脈では、不信者の配偶者がクリスチャンと結婚していることによって救われることを意味してはいません。それは、イエス・キリストを信じる信仰をとおして恵みによって救われるという福音のメッセージと矛盾します。救いは、私たち一人ひとりが選択しなければならないことです。ここで言われているのは、不信者の配偶者が聖霊による特別な働きを受けるために取っておかれるということです。どのようにしてでしょう。それ

は、クリスチャンがごく身近にいることによってです。私たちの生き方は、暗闇すべてにキリストの光をもたらすべきです。16節でパウロは、不信者の配偶者を離婚してはいけないという教えについて続けてこう言います。

１コリント 7:16 なぜなら、妻よ。あなたが夫を救えるかどうかが、どうしてわかりますか。また、夫よ。あなたが妻を救えるかどうかが、どうしてわかりますか。

ここにも、ノンクリスチャンの方と結婚している人がおられることを私も承知しています。その中には、配偶者の方もイエス・キリストを信じ、今では結婚生活で霊の一致がもたらす大きな祝福を享受している人もいるでしょう。

また、ノンクリスチャンの配偶者がイエス・キリストを受け入れるよう祈っているクリスチャンの方には、あきらめないで、ぜひ祈り続けていただきたいと思います。使徒パウロもここでこう言っています。

１コリント 7:16 なぜなら、妻よ。あなたが夫を救えるかどうかが、どうしてわかりますか。また、夫よ。あなたが妻を救えるかどうかが、どうしてわかりますか。

「わかるわけがない」と思っている人もいるでしょう。私も半分は皆さんと同じ意見です。

救いについて語っておられたイエスは、マタイ19:26でこうおっしゃいました。

マタイ 19:26b 「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」

主のうちには、いつも希望があります。

OIC役員の米田ボニーさんにぜひ聞いてみてください。ご主人のまさおさんのために25年も祈ってこられ、まさおさんはついにイエス・キリストを信じるようになられました。

ですから、どうか祈り続けてください。愛情を注ぎ続けてください。キリストの姿を配偶者の方に示してください。

いつかあなたの配偶者もキリストを信じるようになるかもしれません。

「神にはどんなことでもできます」

しかし、今独身の方々には注意しておきます。私の母もこういうことを知らずにノンクリスチャンと結婚しました。私が救われたとき、母はある男性と数年間同棲していました。私は母に福音を分かち合い、数ヵ月後に母は信仰を持つようになりました。まもなく、母は自分が同棲していることで、罪のある生き方をしていると気づきました。母は男性に、自分がクリスチャンになったこと、そして、結婚していない男性と同棲を続けることはできないと説明しました。すると彼は、「わかった。じゃあ結婚しよう」と言いました。ふたりはすぐさまラスベガスに行って結婚しました。今日私たちが学んでいるようなことを、私の母は知りませんでした。私に聞いてくれれば教えてあげたのですが、知らないまま、不信者と結婚しました。私の継父はとてもいい人です。母のしたいことは何でも応援してくれます。でも、クリスチャンになる気は毛頭ありません。一方、母は夫の救いを願っていて、日夜そのことで心を痛めています。夫と霊的にもひとつになりたいと願わない日はないのです。年々、母が神に近づけば近づくほど、夫との関係は希薄になりつつあります。

キリストに近づけば近づくほど、神がふたりの関係も深めてくださる。この言葉は、ふたりの人がキリストを中心とした人生を築く様子をみごとに描いています。

私たちの家の寝室には、額が飾ってあります。プレゼントとしていただいたのですが、今日の学びの結びとして、そこに記された言葉をご紹介します。

結婚は三人四脚
理想の結婚には三人が必要
ふたりが出会うだけでは不十分
ふたりは愛で結ばれる
結んでくれるのは、愛を創った天の神
ふたりは愛で強く固く結ばれる
つらいことがあっても大丈夫
ふたりは神の愛を知っているから
神がいつもいっしょだと知っているから
神を愛するときもふたりはひとつ
心と思いと知力を尽くす
神を愛する愛に見出したもの
それは、日々お互いを愛すること
神のご計画にかなった結婚
そこにいるのは一組の男女だけではない

必要なのはひとつにされること
それはキリストだけができるわざ
結婚は三人四脚

まったくそのとおりです。

不信者と結婚するべきでない理由は他にもありますが、一番の理由は、神がそうしないようにと警告なさったからです。あなたの天の御父は、あなたを愛してくださっています。またあなたにとって何が一番かもご存知です。気持ちの上でなかなか納得できなくても、神を信頼しようと思いますか。どうか覚えていてください。私たちの心はうそつきなことがあります。しかし、神は決してうそをつかれません。

祈りましょう。